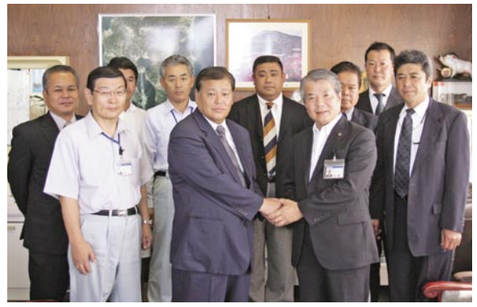
6/23 巨大スイカ現る

下市之園に住む迫田鉄矢さん（60）宅で、直径約40cmのスイカがなり、道の駅たるみずへ贈呈されました。毎年、楽しみで作っているというスイカは、いつも大きなものばかり。今年は例年より大きいものが出来たことから、今回の贈呈に至ったとのこと。

鉄也さんは「肥料は普通なのですが、いつも大きなものができます。毎年、孫にあげるのが楽しみです」と感想を述べていました。

◎右：鉄矢さんの孫の姫加ちゃんとスイカ

6/21 災害応急対策協定書



災害時における応急対策に関する協定書が、垂水市と垂水市建設業組合の間で締結されました。

この協定書は、災害時の応急対策に係る業務を迅速かつ的確に行うために締結されたもので、川越組合長は「垂水市で災害が発生した場合、そこに住む人たちのために、迅速かつ的確に復旧作業を行うことは非常に重要なことです」と協定書の重要性を認識し、水迫市長は「昨年、一昨年と建設業の皆さんには災害復旧という重大な業務の一旦を担っていただきました。今後も皆様のお力をお貸しください」と協力を要請していました。

7/2 社会を明るくする運動

毎年７月を法務省は「社会を明るくする運動」の強調月間としています。２日「社会を明るくする運動のメッセージ伝達式」が市長室で行われました。伝達式では、垂水市保護司会の友岡副会長が「防ごう犯罪と非行・助けよう立ち直り」という統一標語と法務大臣メッセージを、更生保護女性会の山之城会長が鹿児島県知事メッセージをがそれぞれ水迫市長へ読み上げ、明るい社会への想いと共に手渡しました。また各会のメンバーは、この運動を知ってもらおうと４日～５日にかけて市内各中学校で訪問運動を行いました。

6/24 敷根町の花植え活動

敷根町において子ども会恒例の「花植え活動」が行われました。この活動は、５年前から行われ、子供たちは土作りから花植えまでを行います。子供たちは、丸山指導員の熱心な指導のもと、保護者の助けを借りながら作業を行いました。町田振興会長は「この活動を通して子供たちが何かを得てくれればいいと思います」と感想を述べていました。

health column

けんこうコラム

～分かりやすい病気の話～

今月のドクター

安部　智

垂水中央病院　院長

ひとこと

垂水中央病院に赴任して３年半になります。市民が安心して暮らせる垂水市を目指しがんばります。

医師不足・看護師不足

全国的に医師不足・看護師不足が大変なのをご存知ですか？

将来、お医者さんは過剰になるからと、政府は大学医学部の定員を減らしてきました。２年前までは看護師さんも近いうちに足りるといわれ、鹿児島でも県立保健看護学校の閉校が決まっています。しかし、今の病院には、最新の医療を行うこと、安全性を高めること、患者さまに十分説明しインフォームドコンセントを得ることなど多くのことが求められるようになり、多くの人手と時間が必要です。医学・医療の進歩によって、昔に比べてたくさんのお医者さんや看護師さんが必要になっているのです。

産科・小児科の問題は特に有名になっています。昨年、三重県の尾鷲市民病院が年俸5、５００万円で産婦人科の先生を雇い話題になりましたが、そのお医者さんは1人で1年３６３日が24時間勤務という激務のため1年で辞めています。また、横浜市の堀病院で看護師さんに助産師さんの仕事をさせていて問題になりましたが、助産師さんの絶対数がまったく足りないため、現実には全国の多くの産科で看護師さんが代役を担っていたのです。垂水市には産婦人科はありませんが、鹿屋市には県立病院と数軒の産婦人科の開業医の先生方が努力されており、大隅の産科医療はなんとか守られています。一方、夜間休日の小児科医療を担っていた「鹿屋方式」が危機に陥っているのはご承知のとおりです。それなら垂水中央病院に小児科を作ればよいと思われる方も多いと思いますが、政府は産科や小児科の集約化（二次医療圏＝大隅全体に1か所）を進めており、垂水市内に夜間休日も対応できる産科や小児科ができる見込みは当分ありません。これらは小児科のお医者さんが少なすぎるのが最大の原因ですが、全体の医師数が足りないことが根本にあるため、すぐには解決されそうにありません。垂水市を含めた大隅地域が子供を生み育てることができなくなれば大変です。私たちのような小児科以外の医師もがんばっていきますが、大隅の小児医療を守るために市民の方々も小児科のかかりつけ医のお医者さんたちとの協力をお願いしたいと思っています。

最後に看護師不足について触れます。垂水市の病院で最も問題になっているのは看護師さんが足りないことです。垂水中央病院の病棟では10人の入院患者さまに対し1日平均で1名以上の看護師さんが勤務しています（10：1看護）が、これには以前に比べ看護師さんが2割以上多く必要です。現在ぎりぎりの状態で維持できていますが、垂水市内の病院や診療所はどこでも看護師さんが見つからず困っています。このままでは垂水市の病院や診療所の病棟が縮小～閉鎖されるかもしれません。小児医療だけでなく、病気になった時に垂水市で入院治療ができなくなる可能性もあるのです。お知り合いの看護師さんや看護学生さんがおられたら垂水市内の病院や診療所にご紹介ください。

ドキ土器垂水

宮下遺跡⑨ 遺物について No.6

今月も、宮下遺跡から発見された遺物（いぶつ）（大昔の人々が使用した道具）について説明します。

宮下遺跡からは、古墳時代のものと考えられる土器（成川式（なりかわ）と呼ばれます）が発見されています。

「古墳時代」とは、全国的に古墳がつくられた時代で、3世紀から6世紀までの約３００年間のことです。古墳とは、墳丘を持つ古い墓のことで、位の高い者や権力者の墓として築造されました。

規格化された古墳が全国的に展開されることから、古墳築造の背景には一定の支配力をもった政治勢力があったと考えられ、その勢力はヤマト王権と呼ばれています。この勢力は非常に強く、その支配力は全国に及んでいましたが、列島の南端である鹿児島にはヤマト王権に強固に反対する集団がありました。それが「隼人」と呼ばれる人々で、成川式は隼人が使用したと言われる土器です。

◎宮下遺跡出土の成川土器